

『みやぎの3.11』による災害対応の経験・教訓伝承

取組のあらまし

取組団体 宮城県

取組内容 東日本大震災からの復旧・復興過程で得られた職員等の経験や教訓などを、次代に伝承する取組

推進体制 11名（令和元年度～令和4年度：延べ）

予算等 115,335千円（令和元年度～令和4年度：総額）

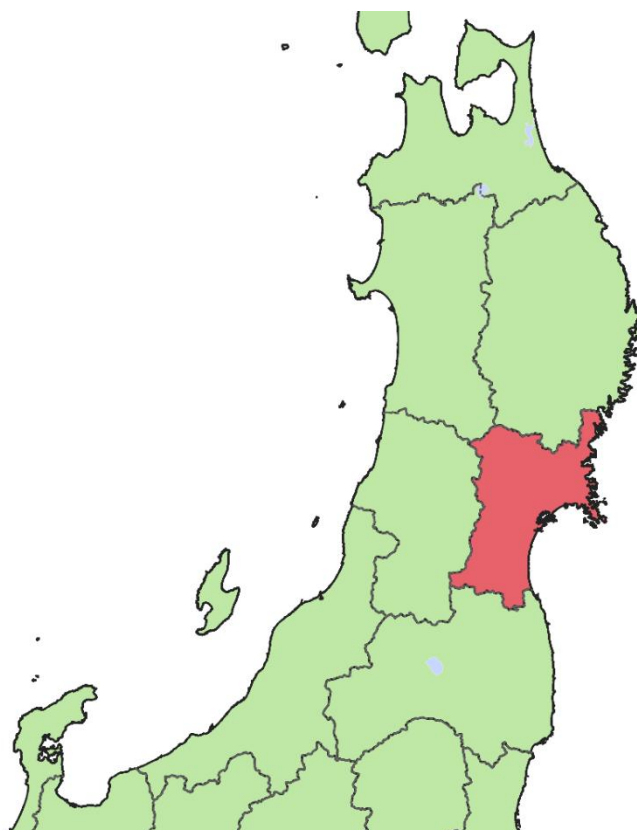
1 宮城県の概要

人口 224万2,389人 令和6年1月1日現在（住民基本台帳人口）

職員数 4,762人 令和6年4月1日現在（一般行政部門）

総面積 7,282.29km² 令和6年1月1日現在（国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」）

図表 1 宮城県の位置図



出所：国土地理院 地理院地図・国土数値情報を基に当機構作成

2 取組の背景・目的

平成23年（2011年）3月11日に発生した、平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震により、宮城県では甚大な被害を受けた。その後、国内外からの支援を受けて東日本大震災からの復旧・復興に取り組んだ被災県として、宮城県は、その教訓を発信し次代に継承するほか、今後の大規模災害に対する備えを万全にしていくことが必要であることから、復旧・復興過程で得られた職員等の経験や教訓等を整理・体系化し、次世代に継承していくことで、将来の大災害時の羅針盤・判断材料とするために、宮城県震災復興計画に定める計画期間（10年間）の総括検証を行うこととした。

3 取組内容

（1）みやぎの3.11「現場編」・「回顧編」の取りまとめ

取りまとめに当たっては、震災時に復旧・復興に取り組んだ職員に対し、災害エスノグラフィ¹の手法に準拠したインタビューを中心に進め、「現場編」としてまとめ上げた。また、幹部職員12人へのインタビューも行い、発災時および復旧対応時の具体的な経験や教訓を、「回顧編」としてまとめ上げた。

それぞれの概要は以下のとおりである。

ア 現場編

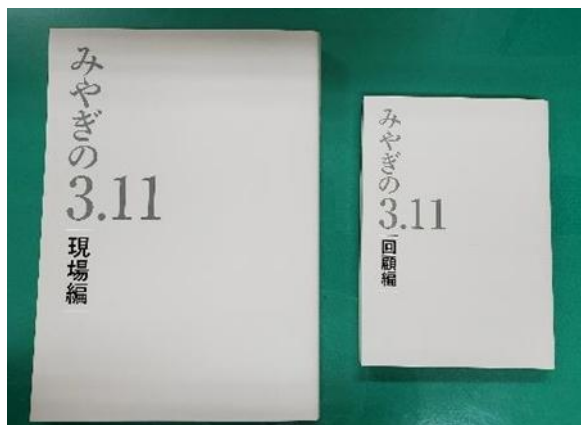
- ・4年間で約600人の職員・関係者に実施したインタビューを、10分野62テーマに分類・構成し、ドキュメンタリー形式にまとめたもの。
- ・A4フルカラー、512ページ
- ・構成は以下のとおり。
 - I. 初動対応 II. 応急対応 III. 災害復旧 IV. 被災者支援
 - V. 住まいとまちの復興 VI. 産業・生業の再生 VII. 原子力災害からの復興・再生
 - VIII. 体制整備 IX. 創造的復興 X. 震災伝承

イ 回顧編

- ・発災及び復旧対応時の幹部職員12人に実施したインタビューを聞き書きによりまとめた回顧録。
- ・A5モノクロ、208ページ

¹ 災害エスノグラフィ：災害現場に居合わせた人が体験（暗黙知）を自身の言葉で語り、その人にとって災害がどう映ったのかを明らかにすることで（形式知）、災害現場に居合わせなかった人が、現実の災害とは何か、被災地では何が起きているのかを、追体験し、共有化できるようにするもの。阪神・淡路大震災以降、学術者により調査研究されている。

図表 2 みやぎの3.11「現場編」・「回顧編」の表紙



出所：宮城県

特に、「現場編」については、テーマごとに時系列が分かる年表と写真を始めに掲載することで、全体の流れを予め把握したのち、本文を読んでもらうように工夫した。本文は、「何が起こっていたか」「経験から学んだこと」「今後に向けた取組」の3項目について、インタビューで得た証言を中心に取りまとめた。また、文中に写真と図表も豊富に取り入れ、読みやすくなるよう工夫した。

図表 3 みやぎの3.11「現場編」紙面構成
(注：右から左へ構成される)



出所：宮城県

（2）インタビューの聴講実施

インタビューを現在の担当者等が聴講することで、復旧・復興過程で得られた職員の経験等を生の声として聞くことができる場とするほか、聴講者からの質問等の時間を設け、今後の災害に役立つ知識や心構え、対応策について深く学べる機会を設けた。

インタビュー実施期間中（2019 年から 2022 年まで）、コロナ禍により聴講が厳しい状況があったものの、700 名近い職員の参加があった。

図表 4 インタビューの風景



出所：宮城県

（3）ポータルサイト「東日本大震災 宮城の震災対応記録」

「東日本大震災 宮城の震災対応記録（職員インタビューによる震災の記憶・経験の伝承）」として、みやぎの3.11「現場編」の内容をウェブ化したポータルサイトも作成した。冊子をPDFで見ることができるほか、テーマに関する関連項目のリンクも掲載し、より深く学べるようにした。また、「後輩へのメッセージ」としてインタビューに対応した職員の動画メッセージも、テーマごとに（1テーマあたり約3分）を掲載している。

図表 5 ポータルサイト「東日本大震災 宮城の震災対応記録」



出所：宮城県

4 成果・課題

（1）取組の成果

復旧・復興に携わった職員等へのインタビューを踏まえたとりまとめと、関連情報を検索できる環境整備を行ったことにより、災害対応の具体的な教訓が改めて広く共有され、今後発生しうる災害対応に向けた貴重な資料が作成された。これにより、宮城県内外の自治体や関係機関が災害対応の質を向上させるための参考資料を得ることができるようになった。

また、宮城県職員の新任職員研修や階層別研修において、インタビューの知見を生かし、職員の経験談を聴講する機会を設けることで、大規模災害発生時における県職員の役割の理解や災害対応力の強化に取り組むことができている。

（2）今後の課題

作成した「みやぎの3.11」の活用については、現状、読み手側に委ねられているため、今後、効果的に活用するための仕組み作りが必要である。また、これらの教訓を実際の現場でどのように活用していくかについても検討が求められている。

関連・参考資料

宮城県ウェブサイト

- ・みやぎの3.11「現場編」・「回顧編」について

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/densho/miyagi-311.html>

- ・東日本大震災宮城の震災対応記録（職員インタビューによる震災の記憶・経験の伝承）

<https://www.pref.miyagi.jp/site/densho/index.html>